

庵治石、海を渡りドバイへ

素晴らしい出来栄と大絶賛

高松北支部所属の和泉憲さん（有限会社石材商太元屋）57歳。高松北支部では組織対策部の副部長を務める傍ら、高松市の教育委員や高松市こども会育成連絡協議会の副会長など他の団体の役員も多数務めている。仕事は牟礼町で庵治石の採掘から加工、施工までを手がけており、8年前に代表に就任してからは建築分野へ力を入れている。そんな和泉さんが、今年日本で初となる中東ドバイへ庵治石を輸出したと聞き取材した。

○庵治石ドバイへ

輸出した庵治石は、ドバイの5つ星ホテルで開業を予定されている日本食レストランのカウンターや階段などに使用される。場所は日本でいう東京の銀座のど真ん中に、超高層ビルが建っているような地域。

ドバイへ庵治石を輸



和泉さん

出することになった経緯としては、ドバイに事務所をおく知人から「ドバイに庵治石を送ることができるか」と声がかかったため。利益ではなく話題になればいいなと思い、受注して庵治産地の協力業者10社と連携することにした。

それから日本で約1カ月半で加工や仕上げを完了させた。

納品したのはカウンターや階段、壁材など200点を超えるもので、和泉さんもここまで大きな工事はやったことがなかったと言う。

梱包し現地へ輸送するのも手探りだった。

○現地での仕事

自身は、仕上げた庵治石を船便で輸送してから現地へ出向いた。約1週間の滞在だったが、その間はずっと現場で工事に立ち会った。

ドバイでは日本人を尊敬している人が多いらしく、最初行った時には「プレジデント」、帰国する頃には「ボス」と呼ばれるほど関係は良好で、仕事はやりやすかった。

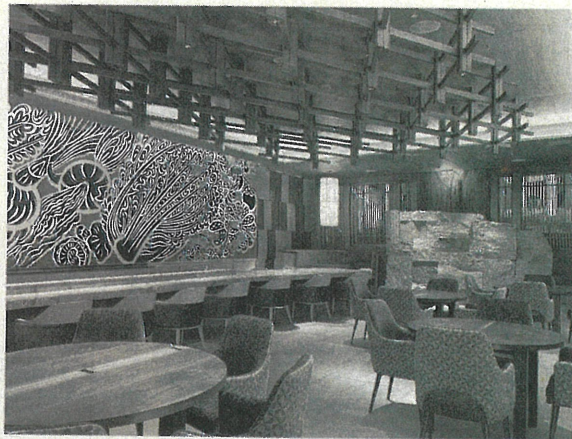
現地の庵治石は完璧にその場に溶け込んでいた。ドバイは文化も人種も色々入り混じっている地域であるが、それでもレストランに入ると自然と日本を感じる空間に仕上がった。発注元からのクレームも一切なく、現地の関係者にも「素晴らしい出来栄だ」と絶賛された。

○今後の展開

今回ドバイへの仕事を成功させたが、今後海外をメインに仕事をしていくのかというところではなく、地元の工務店から庵治石を使った床張りの仕事などの建築の仕事に力を入れていきたいと言う。

ドバイの仕事も自分のところだけが良ければいいという思いでやったわけではなく、庵治石の良さを知らせる事でその価値を高め、庵治石に係わる事業者全体が良くなればという思いだったと話す。

墓石の仕事に勢いがなくなっている今、庵治石が産地として力を持っている内に墓石以



今年オープン予定のドバイの日本食レストラン。カウンターや壁材、階段などで200点以上の庵治石を使用

情報を発信し続ける事が大事

事業所情報

【事業所名】

(有) 石材商太元屋

【代表取締役】

和泉憲（高松北支部）

【住所】

高松市牟礼町牟礼

3720-3600

【電話番号】

087-845-

1114